

『かんきょうかわら版』

愛南町環境衛生課 TEL 72-7316

食品由来の「えひめA I - 2」で水回りの匂い対策

食品で作る微生物資材「えひめAI(あい)」をご存じですか？

「えひめAI(あい)」はアコヤ貝のへい死が続く宇和海の浄化や、工場排水、生活排水の発生源対策として使用できないか、という目的で研究が始まり、愛媛県産業技術研究所で開発されました。

「えひめAI-2」とは【環境浄化微生物活性化資材】の「えひめAI-1」を、家庭でも簡単に作れるように改良されたものです。

すべて食べられるもので作られており、安全で安心して使えます。

「えひめA I - 2」の作り方 (2リットル分)

【材料】(2リットル分を作る場合)

- ・納豆: 1粒
- ・ヨーグルト: 100g
- ・砂糖: 100g
- ・38~40℃のお湯: 1リットル
- ・ドライイースト: 8g
- ・ペットボトル: 2リットル用

①ヨーグルト、砂糖、お湯、ドライイーストを量ってペットボトルに入れます。

※ミキサーがあれば先に混ぜるとスムーズに発酵します。



②納豆を1粒入れて混ぜます。温度が35度前後になるように水を入れて調整します。

③発酵するときにはガスが発生するので空気が抜ける程度に蓋を緩めてください。発酵中は上部に薄茶色の膜ができます。発酵が活発になる1~2時間の間保温すると、完成までの時間を短縮できます。

保温の方法: タオルを巻いて熱が逃げないようにするか、35℃前後のお湯で湯煎してください。



④発酵膜がなくなり、甘酸っぱい(お酒のような)匂いになっていれば完成です。分離しないと腐ってしまうので下に沈殿している部分は取り除いて畑などに撒いてください。完成後は冷暗所で保存してください。

完成までの目安: 35℃程度で保温した場合、2日ほど水を使用した場合、1週間ほど

裏面にも関連記事を掲載していますのでチェック⇒

「えひめA I-2」の活用法はさまざま！

水回りの臭い・ぬめり対策

作成した「えひめAI-2」を台所やお風呂の消臭やぬめり取りに使うことができます。水回りに使うときには上澄み液を使用してください。沈殿した部分は生ごみの臭い取りに活用できます。

- ・台所は「えひめAI-2」を排水口に 50～100ml流して使用してください。
- ・トイレには週に一回ほど 100ml程度スプレーして消臭してください。
- ・浴槽への使用は、入浴後の残り湯に 50ml程度入れると湯あか取りに効果的です。残り湯は洗濯にも利用できます。

※食品ではないので、飲用や人体への塗布は行わないでください。

家庭菜園にプラスα 「えひめA I-2」で堆肥作り

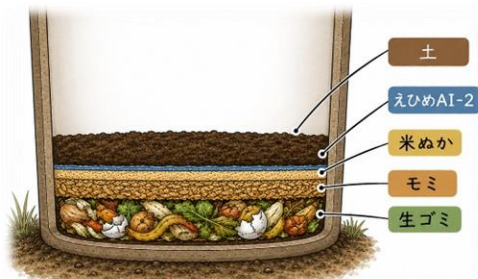
家が出る生ごみをコンポストなどで堆肥にして循環させれば、ごみの減量や化学肥料の使用量減少につながり、環境負荷が軽減されます。「えひめAI-2」を使うことによって、さらに快適な家庭菜園を楽しむことができます。通常の堆肥より臭いを軽減させることができます。

○堆肥の作り方

用意するもの：生ごみ、えひめAI-2(500mlほど)、米ぬか、もみ殻、腐葉土（普通の土でも可）、堆肥を入れる容器(できれば2つ)

各材料の分量については容器に合わせて調整してください。もみ殻は、生ごみの水分量が多ければ増やしてください。(おおよその割合として 生ごみ:3 もみ殻:3 腐葉土:3 米ぬか:1 前後)

- ① 容器に生ごみ、もみ殻、米ぬかの順で敷き詰め、上からえひめAI-2をかけて土をかぶせ、容器がいっぱいになるまで積み重ねます。黒いビニール袋などで密閉して熱が逃げないようにします。



- ② 一週間ほどしたら水分が抜けて量が減るので、容器を移し替えて中身を混ぜます。さらにその上から①と同じ要領で容器がいっぱいになるまで繰り返します。



- ③ 水気が減って生ごみの形がなくなり、土が黒くなったら完成です。夏だと1カ月、冬だと3カ月で発酵が完了します。

※生ごみの種類によっては分解に時間がかかる場合があります。その場合は次に作る堆肥に混ぜて発酵してください。(骨、卵の殻、一部果実の殻など)